

## 学生の受入方針

### ■学士課程

金沢美術工芸大学は、工芸美術の継承発展と地域の文化と産業の振興に寄与すべく1946年に創立されました。以来、個性豊かな教育・研究活動に取り組み、文化都市金沢の発展の一翼を担いつつ、美術・工芸・デザイン界で活躍する数多くの人材を輩出してきました。

金沢美術工芸大学は、「芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材」（大学憲章）を育成することを社会から負託された使命であると考え、次の3つの教育目標を掲げています。

1. 地域の文化資源を活用し、「手で考え、心でつくる」をモットーに創造力を高め、人間味あふれる個性と倫理を涵養し、未来社会を拓くクリエイターの育成を目指す。
2. 深く芸術の神髄を探究し、美術・工芸・デザイン分野における卓越した知識と技術を継承することによって、固有の芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担う人材の育成を目指す。
3. 市民から愛され、尊敬される芸術文化教育の中核として、地域社会の活性化と人々の幸福を願い、地球社会の平和と共存に貢献する人材の育成を目指す。

このような教育目標に共鳴し、美術・工芸・デザイン分野における知識と技術の担い手となる意欲と資質を備え、積極的に勉学に取り組む主体性のある人を金沢美術工芸大学は求めています。

入学を希望する諸君に金沢美術工芸大学が望むのは、デッサン等の実技能力を養っておくことに加え、高等学校までの各教科・科目をできる限りしっかりと習得しておくことです。広い視野と基礎的な学力があってはじめて、自らの問題意識を掘り下げて、より高度な制作・研究に進むことが可能になります。一般選抜試験では、すべての専攻が大学入試センター試験において「国語」及び「外国語」を必須の試験科目として課しています。入学後の授業では、制作課題のプレゼンテーションやレポートなど、言語による表現が要求されます。また、筋道立てて読みとる読解力はあらゆる学問・情報に接近するために不可欠な基礎的能力だと考えます。

金沢美術工芸大学では、各専攻がその理念と教育方針に応じて、入学者選抜試験における教科・科目及び実技、小論文、面接等の要件を設定し、明確な目的意識をもった人の入学を求めて「求める学生像」を公表しています。また、美術科芸術学専攻とデザイン科の全専攻では推薦入試を実施しています。

学修に必要な技能と基礎的学力を備え、「芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材」を目指して勉学に励むことができる人を金沢美術工芸大学は広く受け入れます。

## 美術科

美術科では、高度で創造的な技術の修得とその応用をはかり、古典から現代までをつらぬく美術理論を学びます。各専攻はそれぞれの専門にふさわしい目標を定め、特色あるカリキュラムを編成しています。将来、作家や研究者をはじめ、これからの美術分野で活躍し、貢献する人材の育成を目指しています。

このことから、美術科では次のような人を求めます。

### 日本画専攻

- ・ 絵画に関する基礎的な観察力や描写力の表現力と知識を有する人
- ・ 芸術について強い興味と意欲が有り、将来広く美術の応用面に携わる事を望む人
- ・ 将来、作家として世界を舞台に活躍したいと希望する人

### 油画専攻

- ・ 絵を描く事が好きで、自己表現に向けて努力できる人
- ・ 基礎的技術を高め、知識を深めたい人
- ・ 国際的な美術の動きに興味を持っている人

### 彫刻専攻

- ・ 造形の「美」や「表現」に対して強い好奇心と探求心を持つ人
- ・ 「自然」や「素材」と素直に向き合い、粘り強く制作に取り組める人
- ・ 開かれた世界で活躍する強い意志と夢を持った人

### 芸術学専攻

- ・ 美術の歴史や現状を、理論と実技の両面から探究するための基礎がある人
- ・ 芸術の歴史、理論、技法のさまざまな領域において、専門的研究を展開できる人
- ・ 研究成果を社会と地域に還元し、また国際的に貢献する意欲のある人

## デザイン科

デザイン科は、それぞれの専門分野における教育をより高度なものとしつつ、3つの専攻にわたって連携した教育を行っています。グローバル化、多様化の進む現代の社会において、デザインの世界を広く眺めながら、優れた専門性を発揮できる人材の育成を目指しています。

このことから、デザイン科では次のような人を求めます。

### 視覚デザイン専攻

- ・ ものを創ることが何よりも好きで、アイデアを考えることが楽しくて仕方がない人

- ・柔軟性と独創性に優れ、自己の能力と技術を磨くことに喜びを感じる人
- ・コミュニケーション能力を持ち、デザインを通して社会との関わりを大切に  
する人

#### 製品デザイン専攻

- ・自らの手で、ものづくりすることが好きで基礎的な表現力を備えている人
- ・人や生活道具への関心が高い人
- ・デザイナーとして社会で活躍することへの意欲を持っている人

#### 環境デザイン専攻

- ・場所の特性を理解する力、発想力、アイデアの展開力を磨こうとする人
- ・空間デザインに興味を持ち、そこで様々な演出を試そうとする人
- ・金沢のまちを舞台として、デザイン能力を高め、世界に羽ばたこうとする人

#### 工芸科

工芸科は、1年次で様々な素材に触れる体験から基礎的な造形力を養います。2年次以降は陶磁、漆・木工、金工、染織のいずれかの領域を選択し、各々の素材に関する多様な技術の習得、現代の社会的ニーズに適応したより高度なものづくりや造形表現に取り組みます。4年間を通して世界に発信する工芸作家、研究者、デザイナーの養成を目指しています。

このことから、工芸科では次のような人を求めます。

- ・基礎的な表現力を有し、工芸に対し幅広く関心を持つ人
- ・素材、技法、表現に対して、柔軟な対応力を有する人
- ・将来、工芸を通して広く国内外で活躍したいと希望する人

#### ■修士課程

金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科は、「地域の美術工芸の伝統を踏まえ、美術、工芸、デザインにわたり、造形芸術に関する高度な理論、技術及び応用を研究教授し、その深奥を究めて、文化の創造、進展に寄与することを目的」としています（大学院学則第1条）。

大学院における前期2年間の修士課程では、広い視野に立って精深な学識を授け、芸術の各分野における創造、表現若しくは研究能力又は芸術に関する職業等に必要  
な高度な能力を養います。

このことから、大学院美術工芸研究科修士課程では、専攻ごとに、次のとおり教育目標を定め、個別の選抜試験を行っています。修得しておくべき知識、技能を「求める学生像」として専攻ごとに記載しています。

## 《絵画専攻日本画》

### 教育目標

日本画を中心とした絵画において専門的かつ広い見識を深めるとともに、創造性に富んだ高度な内容の制作を積極的に研究します。また、各種展覧会への出品など発表活動も推奨し、自己の作品の評価を広く世に問い個性的表現の確立を目指します。さらに、理論的知識を深め伝統的な表現方法の研究を踏まえ、自由かつ独自の発想に基づき創造表現の世界を追究することで、多様化する新しい芸術の展開にも対応します。

### 求める学生像

- 日本画領域は勿論のこと、絵画表現全般における基礎的知識と技術を有する人
- 専門性の向上並びに表現の修練と研鑽を通し、次世代の優れた表現を志す人
- 意欲的に研究成果発表を行い、広く社会に通じる絵画表現の展開を志す人

## 《絵画専攻油画》

### 教育目標

個性と表現の確立を目指し、現代の絵画表現に対応した教育研究を行います。研究制作の場では技法研究や見学・取材活動により芸術表現についての見識を深め、作品化に向けて着実に研究を進める姿勢を養います。また、学外における個展、公募展等の発表活動を奨励し、将来に向けた制作や専門領域の研究、留学についての助言を与え、作家、研究者として美術界や美術教育及び地域文化の発展に寄与する人材の育成に努めます。

### 求める学生像

- 絵画に関する知識と技術を用い、自主的に研究制作が行える人
- 高度な表現技術を求め、研究成果を国際的に発信する意欲を持った人
- 美術教育や地域文化発展に高い目的意識を持って臨む人

## 《彫刻専攻》

### 教育目標

制作・研究活動での専門性の深化をより可能とするため、本専攻では、塑造・木彫・石彫・金属彫刻等の制作を行う「彫刻コース」と、コンセプチュアルな造形・ジャンルを横断した造形等に対応する「環境彫刻コース」を設けています。両コースは、相互に交流を図りながら、自由かつ柔軟な発想で独創的な制作や研究活動を進めています。これらの活動の中で自身の能力を存分に発揮し、創造性を高め、作家、研究者、指導者として現代社会や芸術文化発展に貢献し得る人材の育成を目指します。

### 求める学生像

- 制作、研究意欲が旺盛で論理的思考力に優れ豊かな自己表現ができる人
- グローバルな視野を持ち、活動を世界に展開できる人
- 斬新な発想力を持ち、表現者や教育者として地域や社会に貢献できる人

## 《芸術学専攻》

### 教育目標

学部の教育方針を基盤としつつ、美学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史、工芸史の5つの専門分野を置き、学術的により高度な研究を行います。また、技法・素材の専門的、実地的な情報が豊富な美術大学の特性を生かしつつ、金沢を中心とした美術館・博物館施設を活用した現場研修や展示企画も指導しています。国内外での実地調査や研究成果の公開を支援し、理論と実践を兼ね備えた美術の専門研究者の育成を目指します。

### 求める学生像

- 学部での成果をもとに、問題意識をさらに深めて学術的に追究することに意欲のある人
- 芸術学領域の専門研究に必要な語学力を有し、調査研究能力に優れた人
- 高度な学術的成果を芸術の専門分野で展開し、社会に貢献できる人

## 《工芸専攻》

### 教育目標

学部での研究制作を基礎とし、より高度な表現能力と論理的な思考力を身につけることを目標とします。演習に重点を置きながら論理的思考力を高めるための理論科目を設け、歴史的な考察や、素材と技術についての探究を通して各自の研究制作を強化します。常に時代を切り拓く創造的な表現を追究しつつ、多様化する現代の要求に対応し社会に貢献し得る作家、研究者、指導者の育成を目指します。

### 求める学生像

- 各専門分野に関する基礎的な技術と知識及び表現力を有する人
- 素材の可能性と表現について探究心旺盛で、これからの創造的な工芸の世界を切り拓くことに意欲のある人
- 作家・研究者及び指導者として広く社会に貢献し、活躍することを志す人

## 《デザイン専攻視覚デザイン》

### 教育目標

学部の基礎及び応用演習で培ってきたヴィジュアル・コミュニケーション能力を、領域の中から専門的テーマを自ら選択し、深く追究します。グラフィック、広告、映像、写真、CG、ウェブ、パッケージ、イラストレーション、立体、ゲーム、漫画等です。同時に「アイデアと表現」の両面から広くコミュニケーション・デザインを追究し、広範な領域で活躍できるデザイナー、アートディレクター、表現者など、クリエイターの輩出を目指します。

### 求める学生像

- ものを創ることが何よりも好きで、アイデアを考えることが楽しくて仕方がない人
- 柔軟性と独創性に優れ、自己の能力と技術を磨くことに喜びを感じる人

- コミュニケーション能力を持ち、デザインを通して社会と関わりを大切に  
する人

#### 《デザイン専攻製品デザイン》

##### 教育目標

デザイナーとしての明確な研究目標を持たせ、高度な水準の実証的デザインを推進し実現する力を養成します。教育にあたっては、教員それぞれの専門領域に根ざした論理的思考や、探究力、表現力、伝達力などを実践的な形で丁寧に指導しています。調査、企画、仮説モデルの展開と検証、1 / 1モデル制作等を徹底して追究し、時代をリードする完成度の高い製品提案を行える人材の育成を目指します。

##### 求める学生像

- 製品デザインの技術や知識を磨いて、デザイナーとして活躍する目標を抱いている人
- 自分の目標とする主な製品デザイン領域をしっかりと考えている人
- 人の生活と向き合う真摯な態度と、デザイナーとしての創造力や独創力を発揮する意欲をもっている人

#### 《デザイン専攻環境デザイン》

##### 教育目標

将来の活動領域に応じて空間デザインに関わる専門能力(構想する力、設計する力、表現する力)を確立・深化するため、指導教員がマンツーマンで研究制作活動を指導します。同時に、造形における幅広い知識と教養を身につけるため、共通選択科目により、国際的視野と領域拡大の基礎を養います。またコンペティションや地域連携事業を自主的な制作・発表の場と捉え、社会及び世界との関わりを重視したカリキュラムとしています。以上を修得した人材を送り出します。

##### 求める学生像

- 空間デザインの専門性をさらに深めようとする人
- コミュニケーション力を養い、ディレクション能力を高めようとする人
- 実務的な能力を高め、社会との接点を見出そうとする人

#### 《デザイン専攻ファッションデザイン》

##### 教育目標

本学が堅持してきたものづくりに対する視点と、ファッションの視点を密に連携させ教育に組み込むことで、時代感覚とともに専門の知識や技術を持った応用力のある人材を育てます。地元の素材の活用など地域性を生かしたテキスタイルデザインからコスチュームデザイン、マネジメントまで一貫性を持たせた教育体系の中で、アート感覚とビジネス感覚を持ち合わせ社会に通用するデザイナーの育成を目指します。

## 求める学生像

- 明確な目的意識・計画性を持って意欲的に物事を進めることができる人
- 鋭敏な時代感覚を持ち、発想力・企画力に優れた人
- 表現者としての基礎的な能力を持ち、創造的かつ論理的な思考を展開させることができる人

## ■博士後期課程

金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科は、「地域の美術工芸の伝統を踏まえ、美術、工芸、デザインにわたり、造形芸術に関する高度な理論、技術及び応用を研究教授し、その深奥を究めて、文化の創造、進展に寄与することを目的」としています（大学院学則第1条）。

博士後期課程では、芸術に関する高度な創造及び表現の技術と理論を研究教授し、地域の美術工芸の深奥を究め、これを総合的に発展創造させ、自立して創作及び研究活動を行うために必要な高度な能力を備えた美術家及び研究者を養成します。

このことから、大学院美術工芸研究科博士後期課程では、美術工芸専攻のそれぞれの研究領域・研究分野にふさわしい資質と研究能力を審査するため、各研究分野ごとに小論文（芸術学以外）、論文又は作品、語学、口述により試験を行います。美術工芸専攻では次のような学生を求めています。

- 志願する研究領域・分野についての知見を有し、言語化する能力を備えている人
- 自立して創作、研究活動を行うための表現技術、知識を備えている人
- 地域及び国際社会における美術工芸の発展に寄与しようとする意欲を備えている人
- 外国語によるコミュニケーション能力を備えている人